

とらうべ通信

2016. 新年度号
No.78

発行所：(社)香川県助産師会 高松市春日町 1176
発行責任者：眞鍋 由紀子 ☎：087-844-4131 FAX：087-844-4130



謹賀新年



会長挨拶

会長 眞鍋 由紀子

新年あけましておめでとうございます。

2016年丙申年の幕開けを迎えて、来る1年の計を立案するべきところですが、丙申とは物事の形が明らかになり、成熟して固まっていく状態をいうようで、会長として香川県助産師会を運営して5年になり、残任期間1年が丁度この年にあたり、会長の責任において、ある程度固めて次の世代に渡していく準備をする期間だと考えています。現在実施している香川県助産師会の事業で歴史のある新生児訪問からいいお産の日記念事業・ほっと相談室事業、まだ2年目の妊娠・出産サポート事業まで多くの助産師の皆様にお力添えを頂いて動かせて行っている状況です。



昨年も香川県内出生の約60%の新生児訪問を担当しており、事業の質の補償をする事においては、周産期相談マニュアル・新生児訪問マニュアル等を使ってもらいながら、対応困難事例については事例検討会で検討し自分たちのさらなる向上につなげている処です。今年も同様の体制で新生児訪問事業の質の補償を確保していきたいと考えています。次いでいいお産の日事業においては、20回大会と記念すべき年を迎え東と西で開催するのですが、中身については20回目にふさわしい内容にしていくよう多くの方々のご意見を頂きながら、実行委員会で進めていけたらと考えています。どうか色々なご意見をお寄せくださいます様お待ちしております。ほっと相談室事業では7年目を迎えることで、すっかり定着し、そこになくはならない相談場所となっており、今後続けて行くためには予算の確保が必要になり、会長の責任において関係部所に陳情し、続けていける段取りをしたいと考えています。妊娠・出産サポート事業においては、3年目を迎え毎月80~90件の電話相談で相談内容を見ると多岐にわたっており、相談担当者のスキルアップを図る事を課題として取り組んでいきたいと思ひます。

以上28年度も香川県助産師会は県内各地で多くの取り組みをしており、何処か此処かで助産師の声が聞こえてくる、母と児にとって暮らしやすい県となることを願ってやみません。これも一重に会員の皆様の各地での活動にかかっていますことに厚く御礼を申し上げまして、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

災害対策委員よりお知らせ

篠原佐智子



災害は、いつ起きるか分かりません。日頃より防災力を高めておくことが必要です。災害時は事務室に災害対策室を設置し、会員の安否確認・被災状況・必要な支援等情報を集め、計画を立て協力・支援要請しなければなりません。また、同時に福祉避難所として災害時子育て支援センターを設置し、運営しなければなりません。今回、緊急連絡網と緊急連絡カードをトラウベ通信と共に送付させていただきます。各自、自分のグループのサブリーダー・リーダーの確認をしてください。2月には、安否確認訓練があります。連絡網と連絡カードを活用し、災害時やその訓練だけでなくグループや会員間の連絡、協力関係作りに活用してください。

いいお産の日 報告

第19回「いいお産の日」丸亀会場 報告



西会場実行委員長 藤本智代

11月8日(日)丸亀市ひまわりセンターを会場とし、昨年に引き続き香川県子育て支援課との同日開催となりました。会場の窓からは丸亀城とこの日に合わせたように色づいた木々が雰囲気を盛り上げてくれ、102家族225名の来場者を迎えることができました。

メインイベントは、三浦香理助産師と大阪教育大学 小崎恭弘准教授を講師に迎え「パパママ必見!! 楽しむ子育てのコツ」をテーマに講演していただきました。三浦助産師の「赤ちゃんはなぜ泣くの?」の問いかけから始まり、赤ちゃんが安心する姿勢や抱き方について理論と実演での講義内容に、納得するだけでなく実際に抱き方を練習して帰られる方もいました。小崎准教授からは、ママはパパと子育てすること、上手にパスイッチを入れてあげることなど体験談を盛りいれ面白く話されました。6か月児のパパからは「今子育てはママ任せだけど、今からでも間に合いますか」などの質問もあり、早速パスイッチが入った方も多くいました。



助産師・栄養士・小児科医・歯科医による相談コーナーも例年通り好評で、15:00終了時間ぎりぎりまで熱心に相談されていました。沐浴体験・マタニティヨガ・骨盤クラス・ベビーマッサージは受付で整理券を発行することで混乱なく受講して頂けました。その他各ブースにおいても来場者とスタッフはしっかりと関わりを持つことができ「ゆっくりと話しが聞けた」

「丁寧に説明してもらえた」という意見を頂きました。改めて助産師は、妊娠・出産・育児に関わる全ての人の身近な存在であることを再認識するとともに、一人一人に合った寄り添い方を考え学び続ける使命感を強く感じています。

最後に、今回のイベントを無事開催することができ、関わって下さいましたすべての皆様にお礼申し上げます。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



子育てフェスタ報告

報告：関亦頼子

今年も、秋晴れのなか、さぬきこどもの国で「子育てフェスティバル」が開催されました。助産師会では、毎年恒例の「赤ちゃんの成長記録」用紙を準備して、身長・体重を測り、足型または手形をとってママ達に手渡します。テントの中では、子育て相談、母乳相談(主に、卒乳の事、卒乳後の乳房の状態について)、9名のママ達の相談がありました。大きい子ども達には(主に、小学生たち)、名まえ(ネーム)カードを作りました。ママも、子どもの水筒につけようと、センスあるデザインでステキなネームカードを子供たちと一緒に作っていました。赤ちゃんの足型をとっていたら、お兄ちゃんやお姉ちゃんも「自分も～」と、成長記録用紙に手形をとって、大切に持って帰ってくれました。好評で用意していた100人分では不足、急ぎ追加しました。ここでは、パパもママも共同作業で赤ちゃんの足型をとって来て、きれいな足型がとれたら大満足です。赤ちゃんと一緒に楽しい時間を過ごせました。(スタッフ7名・高校生ボランティア2名)

第19回 『いいお産の日』高松会場 報告

高松会場実行委員長 白河文子

11月3日、高松テルサにおいて第19回『いいお産の日』が開催されました。香川県子育て支援課がシンポジウム・相談コーナーと新たにイクメン講座を担当、助産師会が体験コーナーを担当しました。暖かく良い天気にも恵まれ、58組155名の方が参加してくれました。



「すばらしいおっぱい ～いろんな子育てのかたち～」をメインテーマに、シンポジウムでは、香川大学小児科 加藤育子医師が母乳育児における大切なこ

とや母子相互作用について、池添紀美代助産師がこれまでの病院～地域における母子保健事業の歴史や、母乳育児相談での体験を分かりやすくお話していただきました。フリートークでは、夫の立場として妻へのサポートを様々な形で実施している“イクメン”パパの意見が発表され、賞賛の声が上がっていました。また、母乳や混合・人工という栄養方法に関係なく、子どもにたくさんの愛情を注ぎながら一生懸命子育てしている母親の姿がありました。「授乳の時に噛まれたりするがどうしたらいいか？」という今困っていることの質問もあり、シンポジストから適切なアドバイスをもらっていました。活発な意見交換の場となり、参加者・主催者双方にとって非常に有意義な時間となりました。イクメン講座では、大勢のお父さんたちが子育てに関わる秘訣を熱心に聴いていました。体験教室や各ブースでは大勢の家族が参加され、予約で満員御礼となったコーナーもあり、とても賑わっていました。沐浴体験では近い未来のパパが汗だくで練習したり、胎児心音を初めて聞いて、恥ずかしがっていたけど嬉しそうに笑ってくれたお兄ちゃんお姉ちゃんもいました。我が子の成長の証にと様々な年齢の子どもたちが体重・身長測定・足型を体験しました。

妊娠から出産・育児を通して身近な存在である助産師は、ますますその活躍の場が広がっていくことを期待されています。『いいお産の日』は来年20周年を迎えます。これからも今まで同様、女性に寄り添い、“未来のいのち”を応援していきたいと思えます。

最後に、たくさんの方々の多大なご協力のもと、事故なく無事に開催することができましたことに感謝いたします。ありがとうございました。



施設紹介 ♡今回は…香川大学医学部附属病院です！

報告：看護師長 阿部 慈

当院は、昭和58年の開院以来、母体搬送を主体とした周産期医療を展開しています。平成17年4月に、香川県下で2番目に総合周産期母子医療センターの指定を受け、「断らない医療」を使命として緊急の母体搬送、新生児搬送、新生児のピックアップを24時間体制で積極的に受け入れています。



MFICUでは、母体合併症や胎児異常を伴うハイリスク妊産褥婦の周産期管理を行い、特に母体の合併症管理が必要な妊婦さんにとっては、香川県内で最後の砦としての役割と機能を果たしています。MFICUに勤務する助産師は、正常分娩の介助のほか、年間約60件の母体搬送の受け入れとハイリスク妊産婦の管理やケア、緊急帝王切開の対応などを行っています。助産師は、母と子の二つの生命を守るために、技(スキル)と診断力の向上を目指し、日々努力をしています。また、お産を通して母と子、その家族が本来持つ力を見出し、その力を育むことを使命とし、助産外来からの継続看護を実践しています。周産期科女性診療科病棟は、年間約580件の分娩を取り扱い、幅広い知識と高度なスキルを必要としますが、「温かく寄り添う看護」を目標とし、助産師・看護師がチームワークを発揮しつつ日々研鑽しています。新しい生命誕生の喜びや楽しみを共に感じることができ、助産師・看護師としてだけでなく、女性としても成長することのできる病棟です。



また、当院は、母乳育児に力を入れた助産ケアを展開しています。出産後に母乳育児を楽しく進めることができるよう、妊娠中に「おっぱい教室」と「からだづくり教室」を開催しています。出産後は、母乳同室による頻回授乳を勧め、直接授乳の難しいお母様にはスプーンやカップ授乳を説明しています。出産後は、助産師による「産後2週間健診(すくすく健診)」と「母乳外来」を実施しており、最近では母乳育児が定着してきたと感じています。私たち助産師は、思いに寄り添った温かい助産ケアを提供していくことを使命とし、医師と協働しつつ、より高度な看護を実践できるよう、さらに努力を重ねていきたいと思いを。

★お知らせ

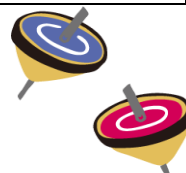
12/12 香川母性衛生学会学術集会において、妊娠出産サポート事業半年間(4~9月)の結果を報告いたしました。

▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶1, 2, 3月の研修会 行事のお知らせ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

日時	研修会・行事	講師等	場所
1月24日(日) 12:00~	第8回香川県小児保健協会研究会 テーマ ~香川県の小児虐待への取り組み~		香川県立保健医療大学 3階大講義室
1月28日(木) 13:30~15:30	妊娠中の検査 妊娠・出産サポート事業主催研修会	サンフラワーマタニティクリニック 院長 柳原敏宏	香川県総合福祉センター 6階第2研修室
2月7日(日) 9:30~12:30	乳児のスキンケア・肌トラブル 施設での乳頭損傷のケア	マドンナ・メデラ	いのちの応援舎

・2月4日(木) 10:00~事例検討会 ・2月7日(日) 13:30~理事会

・2月23日(火) 13:00~ほっと相談室リーダー会



【編集後記】新しい1年が始まりました！まずは今年の日標を決めることから…。